

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	秋田人変身力会議	秋田県秋田市	椎川 忍	経営イノベーション代表	第66回変身力研究会「地方創生－成果と課題」	令和元年6月13日(木)
	<b>講演内容</b> 研究会は「地方創生5年の成果を問う」をテーマに椎川氏が講演(40分)、「秋田の課題を解決するために」をテーマに椎川講師、五十嵐前横手市長、荒谷会長の鼎談(30分)、クエスチョンタイム(15分)の三部構成で行った。講演の冒頭で椎川氏は成功パターンはないから、ほかの地域のまねをしても秋田で成功するとは限らない。自分たちで考えて本気で継続してやらねばならない。鹿屋市の「やねだん」が成功事例だと話されていた。 二部では、五十嵐前横手市長が民間から首長になって感じたのは、市役所の職員と市民が対立関係にあるということ、職員が市民の中に入っていない風土があった。これを是正できないまま市長を降りたのがこの正策をおしえてほしい。講師のアドバイスは「地域に飛び出す公務員」に書いていますが、市民との接点を持つ機会を増やすこと、町内会でもPTAでもできる限り出席して、市民の声を聴き行政に生かす職員を、首長および上司は褒める風土を作ることで改善されるのではないかと話された。 三部では中央資本を誘致する等の外発型開発ではなく、地域資源等を活用した内発型開発が地域創生になるとの講師の見解には賛成するが、内発型開発を促すための方策を教えてくださいとの質問に講師は、地域経済の所得循環構造を分析し、例えばエネルギーへの支出が多い場合は、地域の木材等の代替資源を地元資本で開発する等の施策が考えられるとのアドバイスがあった。				<b>事業成果</b> 出席者の中には県議会議員5名、市議会議員4名、県職員6人、市職員8人等、地方創生に直接関与している方が約30%おり、終了後の感想では講師の冒頭の「地方創生は自分たちで考えて本気になって継続して取り組まなければ成果を得られない」との言葉にショックを受けた感じであった。国からのアドバイスや成果を上げている地域の取組をまねても成果を上げることができないのだから、自分たちで地域経済の所得循環構造を分析して、人口の社会減を食い止める方策を立案し、成果を上げるまで本気になって取り組まなければならないとの気概が行政機関に醸成される契機になったと考えている。 また、会員である金融機関、マスコミの幹部も出席し、同様の感想を述べていたので、行政の地方創生の施策に対して、上記観点からのアドバイス等が期待される。	
2	(一社)久留米健康くらぶ	福岡県久留米市	武地 一	藤田医科大学医学部教授	「認知症カフェ」研修会&福岡県認知症カフェ交流会	令和元年11月17日(日)
	<b>講演内容</b> 一部:武地先生の「認知症カフェの意義と事例(添付参照)」をテーマの講演と、その説明資料の配布を認めて頂き貴重な資料となった。認知症の正しい理解を深めながら、認知症カフェがなぜ必要か?その課題や先駆的認知症カフェの事例のお話等、終了後は事前提出の質問に率直に忌憚なく回答頂き、大変有意義な研修会となった。 二部:県内各地区より上記団体が集まり「認知症カフェの意義と課題及び提言」で講演を頂いた。大変判りやすく丁寧で具体的な内容で、アンケートでも意義と課題と対応で大変参考になり、特に今から運営するタイプには、時機を得た講演会となった。また、講演後の質疑応答でも様々な疑問や課題に対して、率直な回答により充実した講演会だったとアンケートで評価を頂いた。				<b>事業成果</b> 1. 各市町村・運営者や関係者に認知症カフェの意義や必要性を十分に伝えることができ、最大の目的を果たす事ができた。 2. 運営者やサポーターに対して、様々な課題を定義され膨大な資料も全面的に配布し、有意義なようデータ等で大いに参考になった。 3. また、課題への具体的な対応や方向性や価値をご理解いただき、大いに参考になると共に、戸惑っている方々への羅針盤となった。 4. 来年2月9日(日)に福岡県認知症カフェ連絡会の開催を提案し、運営者を中心に10名及び役31名の申込を頂き来年度に向けての布石が打てた。	
3	アースエンジェルス 地上の天使たち	三重県伊賀市	池川 明 伊藤 久美子	医学博士 池川クリニック院長 ヒプノセラピスト 日本ラ・ミュージアム協会代表	いのちのやくそくと母の愛 池川明&伊藤久美子講演会	平成31年4月21日(日)
	<b>講演内容</b> 産婦人科医で、医学博士の池川明氏からは、子ども達から聞いた、どうして自分のお母さんを選んで生まれてきたか?という胎内記憶のお話を具体的に何例もお話しいただき、子ども達が親に対して何を望んでいるかをお話しいただきました。 伊藤久美子氏からは、様々なことに悩みながら子育てを行ってきた自信の体験談をお話しいただいたほか、参加者に対し胎内記憶ヒプノセラピーをしていただきました。				<b>事業成果</b> 池川明氏の講演は大変反響があり、子どもが親を選んで生まれてくるということを知った。お母さん達は、皆それぞれに「私はこの子を選んでもらったんですね」と嬉しそうにされ、気持ちも新たに子育てを楽しみたいという声が多くありました。 パネルディスカッションの中では、子どもをつい酷く叱ってしまう、逆にどう叱ったらいいかわからない等のアドバイスを求めるお母さんからの声もありました。終了後も池川氏の周りをお母さんが取り囲み、子育ての悩みを話し合っていました。 伊藤久美子氏の講演では、参加者はお母さんの愛情を改めて感じ、会場のあちこちですすり泣く声も聞こえてきました。中でも中学生の女の子2人が、号泣していた姿が印象でした。 今後も、子育ての悩みを解消し、子どもを産みたいと思ってもらいために、今回ご協力いただいた助産院とも協力し、今回のような催しを継続的に取り組んでいきたいと思っています。	
4	ウミガメネットワーク	三重県鈴鹿市	田中 宇輝	日和佐ウミガメ博物館カレックス学芸員	環境学習会「地域と共にすすめるウミガメ保護活動」	令和元年5月12日(日)
	<b>講演内容</b> 徳島県の県南に位置する日和佐町(現 美波町)は人口約7,000人の過疎の町だが、昔から多くのアカウミガメが産卵に訪れる浜があった。ウミガメの上陸や産卵の調査は1950年から始められ、アメリカのフロリダと並び、世界最古の調査記録が残る地である。1967年にウミガメが天然記念物に指定され、ウミガメ保護条例が制定された。1985年には日和佐ウみガめ博物館カレックスが創設された。しかし、ウミガメの産卵は観光に利用された。かつてウミガメの産卵が多かった砂浜がどんどん減って、産卵地の環境は劣悪な状況に変化している。 徳島県を代表する日和佐の大浜海岸でのアカウミガメの産卵回数は、昨年0回だった。原因は砂浜が減ったこと、砂浜に灯りがもれて明るい状況であることだと考えられる。(ウミガメは産卵地を選ぶとき、暗い場所を選ぶ)これを光害というが、光害の対策を具体的に紹介いただいた。				<b>事業成果</b> 当会の活動範囲でも光害の報告はこれまでたくさんあった。今後に向けて取り組むための方法を教えていただいた。光の向きを変える、遮光板を取り付ける、ウミガメに影響の少ない低圧ナトリウム灯あるいは高圧ナトリウム灯に変える等である。そのためには、観察してきた状況(光害による被害)を話し、理解と協力を求める必要がある。ウミガメについて注意深く観察を続け、光害の改善についての交渉は地域の方と連携しながら粘り強く進めるべきであるとご教授いただいた。	
5	古高取を伝える会	福岡県直方市	井上 泰秋	熊本国際民芸館館長	高取焼のルーツを訪ねる	令和元年11月30日(土)
	<b>講演内容</b> 秀吉の時代、連行された朝鮮陶工は各大名のもと各地で窯を開く。窯場の条件は、①良質な粘土 ②豊富な木材③水の便であり、多くは古くから須恵器などが焼かれた地である。小代焼は加藤清正が挑戦陶工井戸新九郎に窯を開かせたのが始まりで、後に新九郎は高取八山の嫁の父親であることもあって、黒田長政の懇請により高取焼の窯場に移ることになる。また細川忠利の移封により上野焼の祖傳階がこの地で窯を開くことになり小代焼の歴史を複雑にしている。小代焼は発祥の地は、須恵器窯跡と多くの製鉄遺跡が散在する古代小代文化がしのばれる所であり、古窯跡を発掘することで新しい歴史が始まるのではないかと結ばれた。				<b>事業成果</b> 昔の学者より職員が上だったが、今は学者が職人より上の立場になり、歴史の解釈がちがうようになったのではないかと。焼き物の世界では土は自分で堀り、釉薬も自分で作っていた。土と語り、火と語る世界だった。今は土を購入し、ガス・灯油・電気でも簡単にできるようになった。職人は作ってきた文化が、機械化・効率化によって消されている。また、現代は、職人を育てにくい環境にある現状に危機感を訴えかけた。経済中心の現代社会の歪みを私たちに問題提起された。直方は歴史の深いところであり、直方の歴史を学ぶことで、直方の地に誇りを持つ住民が増えることが、私たちの活動の要だと強く感じさせられた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
6	タラチネの会	宮城県栗原市	①望月 昭秀 ②清水 貞志	フリーペーパー編集長 彫刻家・陶芸家	地域資源「縄文」	①平成31年4月29日(月) ②令和元年9月7日(土)
	講演内容			事業成果		
①縄文文化を現代的に考察する活動を発信している望月氏が、縄文文化の固有性と縄文人の生活、思考について解説。大木義則氏(縄文文化研究会会長)にも参加いただき、縄文土器製作における先人の知恵なども紹介。地域文化の特徴を現代社会に活かす上でのヒントを唆。 ②土のオブジェを制作した清水氏が自身の制作物を前に、また縄文土器の野焼きを横目に、土と火を道具として使用してきた歴史と文化、そして縄文性の色濃い地域とのつながりについて解説。森繁哉氏(風の沢ミュージアム館長)の質問にも答えながら、埋もれた文化を掘り起こすことで地域の特徴と位置づけ、地方創生への道が開けると説明。			①全国的に注目度の高い「縄文」をテーマにした反響は大きく、県内外から来場、若い人も多く、縄文研究者なども参加。現代に生きるための知恵を地域文化から見出す試みとして、また個々の地域の地の利を活かすことの重要性和意義が伝わった。 ②実際の制作物、過程を前にした講演は説得力があり、参加者を引き込ませた。あまり認知されていないこの地域の文化「縄文」を切り口に、その特異性を現代社会における有用性を説き、また埋もれている文化の発見を促すきっかけとして参加者への認知と啓発につながった。			
7	NPO法人帰園田居創生機構	宮城県栗原市	①兼歳 正英 ②赤坂 憲男 ③鎌田 東二	映像作家 博物館館長 大学教授	「里山人間学」 (地域密着型文化施設でおこなう文化芸術の教育普及事業企画)	①令和元年6月2日(日) ②令和元年9月21日(土) ③令和元年10月6日(日)
	講演内容			事業成果		
①良寛が生きた時代背景とその環境などを現代社会と照らし合わせ、政治、宗教、哲学など、様々な分野に触れながら、あえて地域に生きることを意味を問ひ、人としての在り方を探る内容。 ②東北学・武蔵野学にある根拠を、民俗学者として渡り歩いた当時のエピソードを交えながら講演。急激に変貌する今の時代に対する敬称として、地域思想の重要性を説いた。 ③1.災害大國日本2.災害と神話3.災害事例と神社と神楽・芸能4.まとめ 自然と共生してきた昔の人々の知恵が内包された地域芸能や、神社などの役割に触れながら、これからの時代に生きるための指針を示した。			昨年に引き続き、それぞれ長年独自の切り口で様々な現場に向き合った講師をお招きしたことは、受講者にとって新鮮に映ったようで、実際に講演後には講師と受講者との熱心なやり取りが続き、いずれも所定時間を超過した。外的要因が重なり当日参加者は少なかつたものの、連続受講される方もおられ、むしろ本当に興味関心のある方々が通う流れができつつある。知的欲求が高い地域では決してないが、今後も継続して掘り起こしていければ、若い世代にも地域思想が徐々に浸透していくものとみられる。地方や田舎であるからこそ、その土地に根付いた、あるいは埋もれつつある歴史や文化がむしろ現代において注目すべき点であることを事例と体験をもって示唆した点は大きな成果といえる。			
8	特定非営利活動法人 Mama's café	岐阜県多治見市	糸井川 誠子 加納 真奈美	NPO法人ぎふ多胎ネット理事長 NPO法人ぎふ多胎ネット理事	「あなたは どう思う? 多胎家庭の虐待死事件から考える研究会」	令和元年5月13日(月)
	講演内容			事業成果		
愛知県豊田市で起きた三つ子虐待死事件の裁判傍聴記録をたどりながら、事件の経緯とそこに関わった登場人物を洗い出す作業をし、誰が、どこで、何をしたらこの事件は防げたのか? をグループワークで話し合いました。また、双子、三つ子の多胎育児がそうぞを絶するほど過酷な現状を、数字などのエビデンスをもとに学びました。会場からはもれる溜息。眉をしかめ、ぐっと言葉がつかまる。涙をこらえ、震える声…。でも、「かわいそうに…」と簡単に言葉にする人はいませんでした。「たられば」では終わらせない。参加者達の発表は具体的なアクションへの力強い言葉で2時間半の研修会は終了しました。			参加者達の発表は主に以下のものとなりました。 ①想像力 多胎育児の過酷さをどれだけイメージできるか。イメージができないうら、実際に見る、行動する。 ②連携 一つひとつの気づきがつながればたら救えたかもしれない。横のつながりと情報伝達力の向上。 ③仕組み 既存システムをその人に寄せ、効果的に利用してもらう。システムに必ずつながる工夫。 ④違和感の拾い上げ スキルアップの大切さ。他人事ではなく、また、どの立場の人にもできることがある。 ⑤熱量 一人ひとりの熱量は社会を変える。行動すること。もう一歩突っ込んでいく。最後まで見届ける。			
9	認知症の人と家族の会 いづか	福岡県飯塚市	中村 秀一	九州大谷短期大学 福祉学科学科長 教授	地域共生社会における住民活動の重要性～地域づくりは人づくり～	令和元年6月8日(土)
	講演内容			事業成果		
地域共生社会における住民活動の重要性 ～地域づくりは人づくり～ 1.生活を取り巻く現状の仕組み 2.地域住民による支援の必要性 3.地域デイやサロンの社会的効果と地域における支援体系 4.地域活動から見えてくる個々の生活課題→地域の課題 5.支援できる社会であるために(福祉⇒人間教育)			今回の講演で認知症に関する正しい知識の普及啓発と認知症の人と家族の会いづかの活動が多くの方に理解されるようになると同時に、認知症になっても住み慣れた地域で安心して住み続けられる地域は「自助」「互助」「共助」「公助」による地域ケアシステムの構築が急がれますが、そのための機運が高まったと思います。			
10	特定非営利活動法人 世界SHIENこども学校のびすく	三重県津市	野田 真里 古坂大魔王	国立大学法人茨城大学人文社会科学部 准教授 お笑いタレント・DJ・音楽プロデューサー	古坂大魔王さんと一緒に考えてみようSDGs	令和元年5月12日(日)
	講演内容			事業成果		
午前中は持続可能な開発について、昨年末行った答志島サステナブルキャンプについて発表いただきました。参加した高校生や答志島の方々の発表に対し、野田准教授からコメントをいただきました。次に野田准教授に「私たちのSDGs」というテーマで基調講演を行っていただき、SDGsについて深めることができました。 午後からは外務省SDGs大使の古坂大魔王さんを招き、高校生、野田准教授と交えたパネルディスカッションを行いました。その後、高校生がファシリテーターとなり、「今あなたがこれからの時代大切だと思うことは?」「それをSDGsに当てはめるとどの項目に当たるのか?」などを考えるワークショップを行いました。野田准教授の助言をいただきながら、自分ごとに置き換えることで、SDGsを身近に感じることができるよう参加者同士で対話しました。			高校生がSDGs大使である古坂大魔王さんと、対話する場を設けることができ、若年層への啓発に繋がりました。「SDGsって何?」からのスタートでしたが、身近な自身の周りから考えていくことで、SDGsについての考えがより深まったかと思えます。 野田准教授による基調講演は、SDGsについて専門的な部分t身近な内容をつなぐ内容で、わかりやすいと大変好評でした。 ワークショップでは、高校生が野田准教授の助言・指導を受けながらファシリテーションを行う様子など、成長していく姿を見ることができました。 参加者の方々から「本当に良いフォーラムでした。もったくさんの人に来てほしい」との感想をいただきました。学生たちと共に考え、対話することの大切さを改めて痛感するとともに、講師の方の専門的なスキルにより、楽しみながら学ぶことのできる企画を実施することができました。			
11	しがの里山や川を美しくする会	滋賀県大津市	近藤 公人	弁護士	自然環境・生活環境の保全のための法的基礎知識の習得	①令和元年6月9日(日) ②令和元年7月3日(水) ③令和元年9月4日(水)
	講演内容			事業成果		
環境基本法について、公害訴訟事件から学ぶ環境問題、有効な法律・条令、環境を守るには住民の監視が必要～調査の仕方～で気を付けることは私有地に入らない(住居侵入罪)・人が写っている写真や機械が写っている写真(プライバシーの侵害)、宣伝活動で気を付けることは真実であっても名誉棄損になる。ただし、公共性があり公益を目的にされる場合違法性が阻却されることがある。			講演会開催のチラシを広く配ったため、普段会に参加していない方も多く来ていただけました。公害訴訟の具体的な内容を紹介していただきわかりやすかった。講演会の後の勉強会では会が今後どのように情報発信していけばいいか等具体的に教えていただきました。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
12	認定NPO法人こどもステーション山口	山口県山口市	チカパン(桐ヶ谷直美)	パントマイミスト	「パントマイム」で子どもの想像力を育てる！子どもとおとながつながる地域づくり	①令和元年6月7日(金) ②令和元年6月8日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>パントマイミストであるチカパンが、言葉を使わないで動きを表現する「パントマイム」のワークショップと、バルーンアートを作って遊ぶという体験を行った。「パントマイムって何？」という話をした後には、よく見たことあるパントマイムの技(エレベーターやエスカレーターなど)を習い、それぞれ子どもと大人で体験した。子どもたちは、見えないものをそこにあたかもあるように、想像して全体を使って表現した。チカパンは出来なくて失敗することは、カッコ悪いことじゃない、チャレンジしてみる勇氣がカッコいい、とアドバイスをした。バルーンアート作りも、しどろもどろ、キリンなどを完成させた。</p>					<p>パントマイムを習い、演じてみることで観察力や想像力がとても膨らんだ。また、目の前にいない恐竜を想像してパントマイムで空想の世界を楽しみ、堪能することで、子どもも大人も感情が解放され心身ともにリフレッシュできた。日頃、人前で発表できない子ども達もチカパンに後押しされパントマイムを勇氣を出して演じることができた。表現することの楽しさを実感できた。子どもと大人が共に楽しんでことで地域のつながりを広げることができた。</p>	
13	ちっちゃいもの倶楽部	秋田県大仙市	①村田 忍 ②黒田 朋子	獣医師・広域捜索犬トレーナー・農家 障害者乗馬インストラクター	人と動物の関係がもたらすもの	①令和元年5月17日(金)～18日(土) ②令和元年6月8日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>「馬と福祉」では、ハロービボでの治療的乗馬の活動や、活動を行うための馬とコミュニケーションについて講演いただいた。ワークショップでは、実際に馬を放した馬場の中でグランドワークや、乗馬体験も行った。ちょうど良い距離の取り方を馬の目線で説明いただき、実践することで深い学びを得た。</p> <p>「犬と防災」では、日本での広域捜索犬の成り立ちと、犬の能力を活かして取り組まれるK9について講演いただいた。盲導犬や盲犬を始め、世界では多くの仕事を犬がこなしており、それは機械では代替できない、科学では解明できていない犬の持つ能力を活かしていることを学んだ。災害時の捜索はもちろん、日常の行方不明にも対応する広域捜索犬のことや、障がい者支援では自閉症の子供のパニックに寄り添い安全を確保したり、てんかん発作などが起きる前に気づき知らせたりする犬たちが世界では活躍しているそう。</p>					<p>馬や犬のオーナーから、動物は飼っていないけど興味がある人、将来動物に関わりたい、獣医になりたい子どもたちが参加した。実際に動物を用いたワークショップは、興味深く、深い理解につながった。漠然とした将来の夢や、馬との活動に興味を持った人が、具体的なビジョンを得ることができた。犬との活動では、犬を連れて参加者が捜索訓練の導入を体験し、愛犬の能力を十分に感じることができた。</p>	
14	長崎龍馬会	長崎県長崎市	上村 洋行	司馬遼太郎記念館 館長	「長崎坂本龍馬之像建立30周年記念事業」	令和元年5月19日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>基調講演：前日の記念式典にも参加したが、会場いっばいに参加者みなさんの熱い思いを感じた。30年間龍馬像の管理をよくしてきたと感じた。歴史に「もしも」はないが、もし龍馬が近江屋で殺されていなかったら真つ先に長崎に帰ったであろうと司馬遼太郎は語っていた。最近ではネット社会になり若い人が本を、とりわけ小説を読まなくなった。自分の判断力を持つためにも是非本を読んでほしい。</p> <p>パネルディスカッション：(坂本氏)温故知新、歴史を学ぶことに今を生きるヒントが買われているのではないと思う。龍馬は私欲を捨てて他人に尽くした人。人の為に何かを尽くすことで今のギスギスした世の中から脱却できる。(高山氏)勝海舟は人材育成が自分を育ててくれたことへの「恩送り」と考えて多くの人材を育成した。日本人がいけないと世界は回らない、と言われる人材を作っていくべきと思う。</p>					<p>基調講演：司馬さんは生前「今は東京が中心の社会で長崎は遠い土地だと考えるのは錯覚である。長崎は地理的にも表玄関だ。」と言われていたとのことで、当会が長崎を若者にとって魅力ある街にしていく活動を進める上で大いに激励を受けた。</p> <p>パネルディスカッション：高山氏より、幕末の勝海舟は日本1国だけでは、これからは生きていけないことを承知していたことから人材を育てることを常に考えていた。この10年間長崎龍馬会の招聘を受けて公の場で話をする機会を頂き、自分自身も成長した、との発言あり。当会も若い会員の育成を念頭に置いて今後の活動を進めていきたい。</p>	
15	特定非営利活動法人市民創作「函館野外劇」の会	北海道函館市	田邊 克彦	演出家	市民創作函館野外劇セリフワークショップ開催	①令和元年5月25日(土)～26日(日) ②令和元年6月8日(土)～9日(日) ③令和元年7月11日(木)～12日(金)
	講演内容			事業成果		
<p>このワークショップは4年連続で開催されているもので、毎年実施の野外劇オーディション合格者など出演者の演技向上を主目的に、野外劇講演参加可能者を対象とし、函館野外劇の台本を元に演技、発声指導を受けた。</p>					<p>野外劇のオープニングからフィナーレ14場面の演技充実のため、個人演技の修練と発声練習を行い、有料公演に耐えるレベルを達成した。また、市民ボランティアが創り上げてきた公演を今後も継承し、地域の歴史を伝えていくことにより、地域活性化に寄与した。</p>	
16	北海道山岳遭難防止対策協議会	北海道札幌市	久保田 賢次 久我 一総	筑波大学生命環境科学研究科 山岳科学学位プログラム在籍 AUTHENTIC JAPAN 株式会社代表取締役社長	「安全登山シンポジウム」山岳遭難を防止するための安全登山を考える	令和元年5月30日(木)
	講演内容			事業成果		
<p>始めに道警指導官の西村氏から北海道における山岳遭難事故の発生状況、遭難しないための留意事項、救助活動の実態や特に高齢者の山菜取りによる遭難死(傷害事故等)について講演がある。久我氏からは、山岳遭難予防の新しいツール「ココヘリ(ID付発信機)」についての概要とその有効性について講演。登山者が携帯することで正確な位置情報を警察・消防へ連絡、遭難発生から救助・搬送までの時間を大きく短縮することが可能となる旨の講演があった。最後に久保田氏からは山岳雑誌「山と溪谷」の編集長、「週刊ヤマケイ」編集長を務めるなど山岳メディアを通じて事故防止を呼び掛けてきたが力不足を感じてならない。遭難は「他人ごと」ではなく「自分ごと」として意識、「人」と「人」との言葉による伝達も大切。登山者が山へ持つべき戦略は「安全」ではなく「確実」でなければならない。最後に日本山岳遺産基金が行っている取組について触れ、登山道整備の課題、山のトイレ問題、鹿の食害、活動できる会員の高齢化について講演。最後に本日の講師3名が登壇し会場から質問を受け、閉会した。</p>					<p>平成21年7月発生したトムラウシ山遭難事故(登山者8名死亡)をきっかけに開催している「安全登山シンポジウム」は今回で11回目となる。今年に入り、すでに遭難事故が多発している。バックカントリースキーによる遭難、山菜取りにおける遭難等へりによる救助活動も後を絶えないようである。交通事故の96倍の山岳遭難による死亡リスクを回避するためにも「他人ごと」ではなく「自分ごと」、「安全」ではなく、「確実」でなければならないことを実感する。3名の講師の講演を拝聴しつつ、参加者140名の心に響く内容であった。</p>	
17	あきたESDネットワーク	秋田県秋田市	川原 洋	プロジェクトワイルド日本事務局 コーディネーター	環境教育指導者養成講座(PWILD/鳥編・S&C)	令和元年9月7日(土)～8日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>WILDの鳥編は、2017年にテキストができたばかりで、ペンシルバニア州と他の州のアクティビティの寄せ集めである。鳥の体のしくみを図鑑等で理解すること。身近な鳥、例えばカラスやスズメの特徴って何だろう？嘴とエサの関係、羽根と飛び方、足の形と枝に泊まる様子などを知ることにつながる体験型の学習になっている。実際に鳥の模型を使って飛ばした。科学的に飛ぶことの理論を学び、より高度な学びにつながった。</p> <p>S&amp;Cは、早朝から網をもって野外に飛び出した。理科と社会の双方の視点からアプローチし、野生生物の生息地と探求心と社会体験に重点を置いた、中高生向けアクティビティである。社会や環境の変化が野生生物に与える影響と、人間とのかかわりについて、考え行動できる人材の育成を目指している。</p>					<p>テキストを使って鳥編を学び、どのように指導したら良いのかを考え、実践に向けて学びを深めた。受講者は学生や野鳥に興味を持っている人もいて、指導するためには事前に図鑑等を使って調べることが重要だと分かった。使用したテキストは生き物を観察する力を養う良い教材であることがわかり、また高校生から大学教員まで幅広い人材が育成された。自分の体を使って、鳥の生態を体験することは鳥を理解する上で大変役に立った。</p> <p>網を持って屋外で生き物を捕獲することがどのようにつながるかを考えるよい機会になり、また、それぞれの班で捕獲できた生き物と生息地の様子の違いはおもしろかった。それほど広い範囲ではなかったからだった。</p> <p>この講習会の後9月29日は県立小泉湯公園で、幼児から小学生までを対象に体験会を実施した。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
18	特定非営利活動法人 福島就労支援センター	福島県福島市	引田 さいこ	フリーアナウンサー	女性の働くチカラ発見セミナー ～ライフ・ワークバランスを見直そう～	①令和元年9月29日(日) ②令和2年2月9日(日)
	講演内容				事業成果	
話し方や働き方についてワークライフバランスとどのように向き合えばよいか話をさせていただきました。具体的には好印象の話し方や仕事で成果を出してプライベートも充実させる実践術についてなど、講話と講師自身の実践例などを紹介していただきました。参加者から職場でのコミュニケーションの取り方について質問があり、どのように上司や同僚と関わっていくべきかなどのアドバイスもいただきました。グループワークでは接客のロールプレイング、上手な断り方など、参加者と講師で話し合い情報を共有する時間をつくり、自分以外のライフワークバランスについて話を聞くことや他の参加者の意見を聞くことで自己理解や現状把握を行い、問題を解決、整理することができました。					コミュニケーションの取り方は初めての参加者にもわかりやすく、実践的な内容で活用できる内容となりました。ワークライフバランスにおいては講師のタイムスケジュールを紹介いただき、質問の時間を設け、参加者同士で共有する時間になりました。グループワークでの活発な意見交換も行われ、情報共有が参加者の今後の生活をデザインしやすく、より良いものになると考えます。また、セミナーの時間では問題解決できなかった参加者にはセミナー終了後も個別相談を行いました。セミナーに参加して終了ではなく継続して問題のケアを行います。開催後のアンケートではほとんどの方に参加してよかったという意見をいただきました。	
19	ハッピーママくらぶ	福岡県久米市	立石 美津子	作家、講演家	子どもも親も幸せになる発達に課題のある子の育て方	令和元年11月10日(日)
	講演内容				事業成果	
早期教育を推奨する幼児教育を進めてくれた方のお子さんが知的な遅れを伴う発達障害児として生まれてきた。そのことを受け入れることができず、納得のいかないことからいろいろな病院を受診するというドクターショッピングをしていくご自分の話やお子さんの成長過程をお話された。その結果、我が子の「そのまま」を受け入れることが我が子にとってどれだけ大事なことであるかのお話をされた。お母さんたちは、身体的に障害でなければ我が子の障害を受け入れることがなかなかできない。それがその子にとって決して良くないことであるという内容だった。子どもさんの障害を受け入れることからすべては始まる。そのままを受け入れることがどんなに重要であるか、持っている特性にきちんと向き合っていくという内容のアドバイスをされた。					発達と診断を受けているお子さんをお持ちの親御さんだけでなく、グレーゾーンのお子さんをお持ちの親御さんも多く参加されていた。診断を受けていなければ、なかなか受け入れることに抵抗があったりしたが、今回のお話で「あるがままの我が子を受け入れること」が親にとっても子供さんにとっても何より大事なことであると参加して下さった方に伝わったと思います。そのことが、我が子を否定せずに、認めることにつながると感じました。	
20	まちづくりNPOげんき宮城研究所	宮城県仙台市	小泉 凡	島根県立大学短期大学部名誉教授	講演会「小泉八雲と地域づくり・人づくり」	令和元年6月30日(日)
	講演内容				事業成果	
小泉八雲基本情報から八雲が愛した「不思議文学」が社会資源になった経緯及小泉八雲と地域づくり・人づくり-松江発の試みを中心に取組の動機、意義と効果など事例を挙げて紹介。最後に、持続可能な共生社会を目指す動きの中で、「文化資源学」的着想-未評価の地域文化を発掘して磨き、新しい意味づけでプロデュースし文化創造、地域活性化、観光、国際交流などへ活かす。「どれだけものをつくるか」から「どれだけ人生を楽しむか」「どのように生きるか」へと価値観がシフト。主催者、参加者ともにHappyになる。「関係人口」(地域に多様に関わる仲間、応援団)を育み「質的人口」の考え方への転換、無縁社会から好縁社会へ。					未評価の地位金文化を発掘して磨く手法の実例は、参加者の共感を呼んだ。それほどこの地域にも共通するテーマであるからだ。参加者は、お話の会、語り部の会、町内会連合会、地域活動団体リーダー、有識者など、松島高等学校ボランティア部、観光科生徒9名の参加(引率教諭2名)も収穫だった。回収アンケートにより広範囲な地域からの参加を得た(仙台市、石巻市、大崎市、富谷市、東松島市、塩釜市、利府町、松島町)。10代から50代までの8名は高校関係者で一般参加者は60代以上、この年齢層をいかに取り組むか今回も課題として残ったがDVD教育紙芝居「稲むらの火」2枚がほしいとの要望があり後日郵送、お話の会や語り部の会の人々は早速活動に取り入れたいとの反応があったことが成果と言える。	
21	ふるさと文化を語り継ぐ会	長野県茅野市	黒川 弘毅	武蔵野美術大学教授	清水多嘉示の世界を訪ねて「諏訪が生んだ清水多嘉示」	令和元年7月27日(土)
	講演内容				事業成果	
①10:00～13:30「清水多嘉示の作品と故郷をめぐるツアー」 講師：八ヶ岳美術館小泉館長、武蔵野美術大学長野県校友会藤森事務局長 ②14:00～15:30「諏訪が育んだ清水多嘉示」 講師：黒川弘毅武蔵野美術大学教授					清水多嘉示(1897～1981年)は、原村で生まれ地元で画家を嚆望したが、フランス留学でブールデルの作品と出会い感銘を受けて彫刻へ転向。帰国後、帝国美術学校(現在の武蔵野美術大学)創設に参画し、武蔵野美術学校教授、武蔵野美術学園初代学園長就任、美術教育の基礎を築いた。清水に深く傾倒し研究する黒川教授は、その足跡と特に諏訪地域の当時の教育課の影響を詳しく解説し、改めて地元をはじめ多数の参加者に感銘を与えた。	
22	芦屋Tioklub	兵庫県芦屋市	李 亜輝	日本二胡学会 理事	異文化交流出前音楽会と音楽ボランティア養成ワークショップ	①令和元年6月27日(木) ②令和元年6月29日(土) ③令和元年7月11日(木) ④令和元年7月25日(木) ⑤令和元年7月29日(月) ⑥令和元年8月8日(木) ⑦令和元年8月22日(木) ⑧令和元年9月5日(木) ⑨令和元年9月16日(月) ⑩令和元年9月26日(木)
	講演内容				事業成果	
1.音楽ボランティア養成のワークショップを連続開催して演奏技術のスキルアップを図り人材育成を図った。地域で活動する他団体との協働により音楽や朗読を特技技能とするボランティア活動の幅と場を広げられた。 2.老人福祉施設や地域の施設で、誰もが気軽に参加できる異文化交流の出前コンサート)でふれあい交流会を行った。 3.福祉施設で暮らす韓国人、現場で働く外国人と音楽交流会で絆を深め多文化共生を考えるきっかけとなった。					1.楽器演奏や朗読等のボランティア養成ワークショップは生涯学習としてシニア層を中心に人材の育成ができた。 2.ボランティア募集の呼びかけで、地域で活動する人や他団体との協働による新しい取組となる活動の場が広がった。 3.地域のイベントなどに積極的にさんかして地域活動の活性化を図り、地域の人たちと絆を深め地域社会へ貢献している。 4.異文化交流音楽会で、高齢者や地域の人たち、日本で暮らす外国人の人たちとふれあいを通じて相互理解を深めている。	
23	特定非営利活動法人くるくるネット	北海道室蘭市	永井 拓史	tn-works 代表	むろらんICTクラブ	①令和元年7月20日(土) ②令和元年9月28日(土) ③令和元年11月16日(土)
	講演内容				事業成果	
使用するデバイス(ラズベリーパイ・M5StickC)の説明を受けた後、プログラミング基礎であるスクラッチや名前表示の方法を学んだ。次回では、電子工作や画像表示方法を学んだ。電子工作ではチャレンジしてみることを大切にレクチャーしていただいた。次々回では作品作りを行った。監視カメラ・ロボット・センサを制作した。					作品発表会においては、作品を完成させたことはもちろんのこと、オリジナルある作品を子どもたちが作成した。また、プログラムを作ったのかを各自プレゼンテーションし、プログラム内容を相手に伝えることの大切さを学ぶことができた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
24	NPO法人Azuma-te	宮城県栗原市	足利 文香 澤畑 学	NPO法人Avain 副理事長 一般社団法人ディーケア 代表理事	若者が担い、若者と共に取り組む地域づくり活動 ～高校を「人材流出装置」にしないために必要な取り組みとは～	令和元年6月1日(土)
	講演内容			事業成果		
講演会では、足利氏より「高校生が主体的に地域づくり活動を行う(行える)ためには、実践しやすい街(失敗してもよい環境)を大人たちが用意すること。そうすれば、自ずと、自ら考え・行動し・反省し・再度チャレンジする、といったPDCAサイクルが回り始め、チャレンジ精神が養われる。やりたいことを実践・実現できる環境は、高校生の「自己実現の場」として機能し、地域への愛着心にもつながっていく。」と、アドバイスを頂いた。			初回となる第1回目は、高校生が主体の地域づくり活動の支援を行うNPO法人Avainの足利文香氏(副理事長)を講師として招き、ご講演を頂いた。参加者は5名で、属性としては自治体職員、市議会委員、NPO法人、学校教諭等に参加していただき、同じ志を持つ者たちの新たなネットワークを構築できたことは、本事業において最大の成果である。			
25	高安ルーツの能実行委員会	大阪府八尾市	①西野 春雄 ②原 大 ③飯富 雅介 ④楢元 正樹 ⑤橋本 幸 ⑥安福 光雄	①法政大学名誉教授 ②京都能学会理事、能楽高安流ワキ方 ③能楽高安流ワキ方 ④能楽高安流ワキ方 ⑤能楽高安流ワキ方 ⑥東京藝術大学非常勤講師、能楽高安流大鼓宗家預り	「八尾と能」～地域ゆかりの能流派「高安流」を知る～	令和元年10月7日(月)
	講演内容			事業成果		
基調講演では「高安流について」と題し、能楽研究では第一人者の西野春雄法政大学名誉教授が、編集された『能・狂言事典』の高安流の項に掲載の内容や高安家系図他の資料に基づき、能楽高安流が八尾市高安地区発祥と考えられることを説明。その後、講師6名に高安流ワキ方久馬治彦師、観世流能楽師山中雅志師を加え、パネルディスカッション形式にて、高安流の歴史について触れるとともに、その他の意味でも八尾市高安地区が能楽と関わり深い土地柄であることや、現代の能楽師がどのように舞台を務めているかなどのエピソードにより、来場者に地元にならぬで能楽を身近に感じてもらう内容とした。			当日は、地区住民のみならず、八尾市以外からも来場者があり、八尾市内の範囲にとどまらない催しとなった。地元民がつながりを知ることによって能に魅力を感じるとともに、能楽師側もこれまで流儀の中でもあまり意識されてこなかった、受け継がれてきた技について考えなおすきっかけとすることができた。流祖が歴史の中に残した足跡をたどることでこの地を意識してもらえらることにより、高安と能楽の関わりを、地域づくりに役立つ「八尾の魅力」として全国発信していく要素として確実なものに発展させることができた。			
26	安藤昌益資料館を育てる会	青森県八戸市	レベッカ・ジェニスン 熊谷 拓治 三浦 忠司	京都精華大学人文学部 教授 八戸漁業指導協会 会長 八戸歴史研究会 会長	安藤昌益資料館開館10周年記念『安藤昌益と男女平等』 世界の潮流―昌益の男女平等思想とジェンダー	令和元年10月12日(土)
	講演内容			事業成果		
安藤昌益資料館10周年記念シンポジウムは「昌益とジェンダー思想」をテーマに取り上げた。冒頭には、浜茄子エコー会による安藤睦夫さん楽曲の「風雪南部唄」北上よる曲が披露され、華をそえた。「風雪南部唄」は、「人の脈と町医者が?/病める地球を/脈をとる」の歌詞で始まる昌益の思想を伝える歌である。			大型台風の影響もあり、来場者はいつもより少なかった中で、テーマが「昌益とジェンダー思想」の為に、女性客が多かった。レベッカ・ジェニスン氏は、昌益からのメッセージ・時代背景にあるものの昌益の思想をジェンダーの視点から検討しながら、わかりやすく話を進め、来場者の関心を強くひいた。シンポジウム後の質疑応答では「ジェンダー」とは何かという素朴な疑問から始まり、来場者の活発な意見・質問により大いに盛り上がった。安藤昌益という人物像や思想、より多くの人々に感じてもらう、封建社会において男女平等を説いた素晴らしい人物が八戸にいたということが再認識できた。そしてその思想を、安藤昌益資料館を通じて世界に発信していきたい。			
27	特定非営利活動法人なんぶねっと	青森県南部町	阿南 健太郎 古賀 桃子	児童健全育成推進財団 総務部長 ふくおかNPOセンター 代表	行政・学校・家庭そして地域の連携による教育推進 ～地域ならではの教育環境で子どもたちの生きるちからを育む～	令和元年7月14日(日)
	講演内容			事業成果		
講演では、『全国の実践事例から～地域資源を活用した協働事業』をテーマに、児童健全育成推進財団の阿南健太郎氏から児童館と地域、NPOの協働事業や中学生が主体となって進める防災訓練などの事例が紹介され、学校や家庭だけでなく、子どもが自分を活かせる場所を地域につくっていく重要性を語られました。また、ふくおかNPOセンター代表の古賀桃子氏から公民館を活用した協働事業や現代のニーズに合わせ、興味関心を持ってもらえる形にしたうえで本来の難しい目的をプラスするという工夫が必要という「キャンピング要素+防災」などの事例も紹介されました。			講演、事例紹介後の子どもの未来を考えるディスカッションでは、それぞれの対峙からの課題や今後、その課題解決のためにできることなどを参加者で意見や考えを出し合うなどし、現在のそれぞれの立場における課題の共有そして、その課題解決に向けた「何が出来るか」を考え、話し合いました。今後、こうした情報交換や課題共有の場を地域のなかにも増やしていき、地域全体でしっかり課題解決に向けて連携、協働していく一歩とすることができました。			
28	日本一寒いバラの村づくり倶楽部	北海道鶴居村	村上 敏	京成バラ園圃ヘッドガーデナー	村上敏氏の北国のバラと宿根草の庭づくり講座	令和元年6月29日(土)
	講演内容			事業成果		
村上敏氏から、北海道の気候を生かした庭づくりについてはもちろんのこと、庭づくりの初心者から上級者の方までが理解しやすいよう具体的な体験談を交えて講演があったほか、参加者との意見交換や質疑応答なども行われた。また、講演を踏まえて行われた野外での実践講習においては、花壇ガーデンの特色を活かした美しい村づくりに向けた技術の向上を図ることができた。			本事業の実施を契機として、多くの方々に各家庭の花壇やガーデンで美しい花壇づくりを実践してもらうことにより、北海道の特異な気候を活かした観光拠点の形成を図るとともに、鶴居村、ひいては釧路管内全域の広域的な美しい村づくりに寄与することができた。			
29	青森県レクリエーション協会	青森県青森市	小山 亮二	公益財団法人日本レクリエーション協会事業部 プロデューサー	レクリエーション指導者 フォローアップ研修会	令和元年9月8日(日)
	講演内容			事業成果		
青森県内のレクリエーション指導者の資質向上を目的として、レクリエーションの専門家より「ゲームの理論と実技」の指導を受けた。ゲーム理論で基本的な知識を学習した後、様々なゲームを体験した。次々に展開されるゲーム、そして折に触れて、指導上のポイントについての説明は、目を見張るものがあった。参加した受講生は、終始、笑顔で楽しみながらうくさんのことを学ぶことができた研修内容であった。			今後は、研修で学んだことを、学校生活の中で、部活動のなかで、PTA活動の中で、子ども会・ボーイスカウト・ガールズスカウトの中で、地域の町内会等の「お花見会」「運動会」「ピクニック」「クリスマス会」「お楽しみ会」等、地域住民の交流の中にも活用することによって、お互いの親睦を図り、青森県民の活性化にもつながっていきたい。また、学習したことを、いろいろな場で普及促進し、日常生活をさらに元気に、楽しく、「健康寿命」を延ばし「ピンピンコロリ」の人生を送ることにもつながっていきよう努めていきたい。そして、この研修を受講した仲間の方々が、青森県の掲げる「短命県返上」に向けてますます頑張っていたただけことを願っている。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
30	千歳ゾラのまちづくり委員会	北海道千歳市	園田 聡	(一社)日本建築学会 空地アーバニズム小委員会委員	プレイスメイキングワークショップ	令和元年7月10日(水)
	講演内容			事業成果		
<p>・プレイスメイキングに係る事例や手法等について、講師が直接関与していた豊田市の事例を元に、実現までのプロセスを紹介された。</p> <p>・工程としては「なぜやるのか」から始まり「仮説」を立て「検証」に至るまで段階的に検証しながら進めるものであり、市民だけでは進まないし行政だけでも難しい</p> <p>・豊田市の場合はまず行政が音頭を取り「あそべるプロジェクト」を立ち上げ市民を巻き込んでいった。</p> <p>・この工程で特に重要なのが、公共空間には様々な管理者がいて法的な縛りがあるので、その壁を超えるには実証実験を重ねて目で見える検証を行いつつ市民とともに法的規制の緩和へ着実に迎えること。</p> <p>・また市民は多様であり見た目は非協力的でも話せばそうではなくむしろ行動的な方も多いため、とにかく色々な人の話を聞くこと。</p> <p>・提供するコンテンツは特定のニーズに絞ること。</p> <p>・キーマンとなって地域を這いずる者の発掘が重要であるとされた。</p>				<p>・実際に取り組まれた方の説明であったため非常にわかりやすく説得力のある内容となった。</p> <p>・会場から、プレイスメイキングを理解したものの、具体的な取組のイメージが湧かないとの質問に対し、例えばスケボーでも良いしカフェでも良いので特定の需要があるテーマを考えてワークすることが重要である。</p> <p>・人の賑わいが個人間の交流となり、そこで出会ったカップルが成婚したとの報告もあり、現代の都市空間には、出会いの場所、憩いの場所、オープンなコミュニケーションの場所といったサードプレイスが求められている。</p> <p>中心街が空洞化しているまちでは、使われていない公共空間を改めて見直し、公民が連携していかに使いこなすかを考える必要がある。</p> <p>・このワークショップを開催したからといってすぐに動き出すものではないが、副市長も参加していただき行政との連携につながるワークショップであり、主体となる市民団体のマインドセット、人材発掘に貢献したものと考える。</p>		
31	特定非営利活動法人北海道自然エネルギー研究会	北海道札幌市	松岡 憲司	龍谷大学名誉教授	自然エネルギー研究・活用の現状と課題	令和元年6月22日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>①世界の風力発電の現状、②デンマークにおける風力発電発達の過程、③風力発電の技術革新能力形成要因、④北海道に期待すること、を柱に気候・風土・人口・面積も類似するデンマークと北海道を比較しながら、北海道における風力発電や自然エネルギーの可能性について話された。風力発電の契機ともなった山田風車について記録の必要性が指摘された。</p>				<p>デンマークの中小企業農機具メーカーが、なぜアメリカの大企業メーカーに風力発電で成功したのか、環境や人口が類似するデンマークと北海道に共通する可能性などが指摘され、今後の北海道での風力発電や自然エネルギー研究の方向性について、具体的に理解を深めることができた。</p>		
32	一般社団法人ISHINOMAKI2.0	宮城県石巻市	瀬尾 夏美 南陀綾綾繁	アーティスト 作家 作家	いしのまき本の教室「あわいゆくところ 風景と言葉を記録すること」	令和元年6月21日(金)
	講演内容			事業成果		
<p>前半は書籍「あわいゆくところ」を出版した講師瀬尾夏美さんと、聞き手である南陀綾綾繁さんによるトークイベントを行った。後半は他者の言葉を書き残すワークショップ。参加者同士、互いに面識のない2人でペアを組み、互いに人生のなかで記憶に残っている場所の話をする。そして相手の話したことを1人称で表現し、文章にすることで伝えることの本質を学ぶ。</p>				<p>参加者の多くが東日本大震災で被災しているが、そうした体験を他者に伝えることの大切さを学び、聞き書きにより、記録することの大切さを知った。</p>		
33	(一社)四日市大学エネルギー環境教育研究会	三重県四日市市	多森 成子	三重テレビ 気象予報士(キャスター)	～多様な分野で語る 四日市から未来へつなぐ活動～	令和元年10月27日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>環境側面からのSDGs達成、そして持続可能な社会の実現に向け、多様な分野(行政、企業、大学、地域、団体など)のメンバーが日々どのような活動を行い、また、どのような展望や期待をもって活動を行っているのか発表していただきました。</p> <p>発表後には「三重県から、地域から、持続可能な社会に向けて」と題したパネルディスカッションを行いました。</p> <p>気象キャスターとして活躍されている多森氏には、全体司会をしていただき、シンポジウムのスムーズな進行を実現することができました。</p> <p>また、事例発表後のパネルディスカッションにも登壇いただき、持続可能な社会の実現のために求められることについて議論していただきました。</p>				<p>子どもから大人まで、そして行政、企業、大学、地域といったさまざまな分野の方の参加によって、それぞれの考え方を学び 情報交換することができました。</p> <p>参加者からは、「地球の足元である地域には、課題が多くあることに気づいた。地域づくり活動をどのように進めていけばよいのか、このシンポジウムを通して考えを参加者、発表者と分かち合うことができた。」</p> <p>「子どもたちのしっかりとした発表に感動した」などの感想をいただきました。</p> <p>温暖化、気候変動など、日々悪化に向かう環境問題の解決に向け、持続可能な社会を構築していくためには、環境保全に配慮した行動をとることが必要不可欠です。</p> <p>発表してくださった皆さま、そして大勢の参加してくださった皆さまのおかげで、多様な分野の活動事例、そして地域で生まれた変化を学び、「アクション」につながるシンポジウムとなりました。</p>		
34	学びあい「5色の絵の具」	石川県羽咋市	川北 秀人 谷内 博史	人と組織と地球のための国際研究所代表 NPO法人NPO政策研究所理事	住民主体の地域づくりを進めるために 「支えあう地域づくりを進める学習会兼意見交換会」	令和元年12月23日(月)
	講演内容			事業成果		
<p>本学習会は、地域により良い変化を具体的にもたらすことを目的に「情報提供の場(視野の拡大)」と「意見情報交換の場(考動)」を設けた。</p> <p>第1部(羽咋市情報)羽咋市の支えあう地域づくりを紹介①羽咋市の政策や昨年実施したアンケート結果からみえる課題とその解決②市内で実施されている活動内容(サロン運営、買い物支援、生活支援協議体)を紹介。</p> <p>第2部(講演)羽咋市や国の状況を未来予測し、持続可能な地域づくりを進めていくために必要なものの方、考え方、行動を具体的に示唆。さらに先進地での活動事例なども紹介。</p> <p>第3部(意見情報交換会)できるだけ同じ町・同じ地域の参加者で11グループを構成。第1部・2部の情報を元に「①今日気づいたこと」→「②5年後の人と地域の変化を予測」→「③、④の変化に対応するには」→「④今すぐ始めることは」の流れでワークショップを行った。</p> <p>さらに、学習会終了後講師から、スタッフメンバーに小規模多機能自治を進めていくために必要なこととして①担当部署は企画総務部門に②今回の主催団体のような中間支援機能を活用する、などのアドバイスを受けた。</p>				<p>参加者アンケートでは、81%が良かったと評価。また、98%が「参考になった」と回答し、今後に向けて役立つ情報を得たと書いている人が多かった。</p> <p>本学習会の目的は、参加者が地域に変化をもたらす具体的な内容を持ち帰ることであった。参加者は、いまずぐ地域で始めることとして「地域の実態を知ること」「アンケート調査をすること」「買い物支援の仕組みづくり」などを挙げていた。今回の参加者は、町ごとに集団参加している傾向があり、地域に変化を及ぼす可能性が高く、学習の成果があったと考えている。</p> <p>この学習の成果を地域に根付かせるには、サポート体制が必要である。そのため、第3部の内容を参加者にフィードバックするとともに、行政と今回の参加者(希望者)を集めた第3部パート2の開催を予定している。</p> <p>なお、今回の学習方式を「市民団体のまちづくりを進める学びの仕組み」として位置づけ、継続実施していくことを行政に提案したいと会場で報告した。</p>		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
35	長万部町連合町内会	北海道長万部町	三浦 浩	北海道防災教育アドバイザー	災害から身を守るための講演会	令和元年7月12日(金)
	<b>講演内容</b> (チリ地震津波、日本海中部地震、他起動南西沖地震)各津波到達状況を地図上で到達状況(震源地からの距離で最初の津波の到達時間などを説明)も含めた映像で開設。講師2名の災害を経験、日本海中部地震(S38年)、南西沖地震(奥尻島・H5年)高校生の時に奥尻島で被災した体験談を紙芝居などで講演、当時たまたまNHKが別のロケで奥尻島に取材中、避難する島民の映像を放映したもので地震からわずか3分で津波が押し寄せてきた中、実際に近所に住んでいた方の「この方から後ろの方は黒い波にのまれ命を落とした」、「灯油タンクの火災、何度も来る津波と余震に耐えながら朝を迎えた」と生々しい住民の状況を解説。				<b>事業成果</b> 長万部町でも北海道南西沖地震では津波の影響はなかったものの液状化現象により道路がゆがみ、がけ崩れで道路は寸断、水道・ガスが止まり自衛隊の応援や全国各地の義援金で助けていたという町です。被災した町として1人1人の防災意識(自主避難の意識を高める)の再認識ができた講演会となりました。また連合町内会としても各地域との地域連携強化を深められました。	
36	特定非営利活動法人草木谷を守る会	秋田県湯上市	飯島 博	特定非営利活動法人アサザ基金 代表理事	みんなで考えよう♪地域の課題を価値にするアイデア	令和元年9月22日(日)
	<b>講演内容</b> 「適産調と八郎湖」をテーマに、その土地(湯上市)ならではの特色や物語を活かした産物を生み出し地域を豊かにする方法を放っていた。石川翁のことは「井戸を掘るなら水が湧くまで掘れ」を引用し、常に問いを持ち答えを決めずに行動すれば、すべての地域、すべての人々の中にはまだ見ぬ可能性(お宝)が足元に眠っている。だからあきらめず深く掘れと指導していただいた。また、自分の在り方を変えることで、自分がこれまでこうだと決めていたことが違って見える。今まで見えなかった世界が見えるようになる。教えてもらったり、指導してもらったりするだけではなく、自分で考え、自分で方法を見つけ出して地域の課題を価値に転換して行ってほしいと締めくくった。				<b>事業成果</b> 郷土文化・歴史・地域活性等に興味のあるさまざまな方が「石川翁」「八郎湖」について考えられる非常に貴重な時間になったと思う。飯島先生の普段聞くことのできない有意義な講義や初めて聞くような事柄に耳を傾けることで、新たな知識や発見を得るとともに、湯上市の地域資源に好奇心をもっていただけたと考えている。個人的に意見を持つことは大切だが、自分の意見を言う場所はその多くはないので、このような意見交換できる機会を大切にしていきたいと思った。今回、参加者から出た要望、意見をどのように反映させていけるかが課題である。今後も、湯上市の地域資源を積極的に紹介する活動の機会をつくり、地域住民をはじめ広いエリアに発信し、地域への愛着を醸成していきたい。	
37	特定非営利活動法人ふじさと元氣塾	秋田県藤里町	伊藤 栄治 白木 智昭	東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科 教授 秋田大学教育文化学部地域社会考講座 准教授	NPO法人ふじさと元氣塾が町民が元気になるように地域貢献、人材育成を進める上で考えなければならないこと	令和元年10月19日(土)
	<b>講演内容</b> NPO法人ふじさと元氣塾が自立に向けて努力してきていることはわかったので、今後は多くの住民を巻き込んで活動を推進することを考えることが大事である。大学生との協働は、大学生の事情もあり、交通費、宿泊費などが必要になるのでどのように進めるか話し合っ解決することが大事である。魅力的で訪れたいようなことを考えて大学生が進んで訪れるように考えるべきである。				<b>事業成果</b> 今後活動を継続させるために魅力的で楽しく多くの住民を巻き込んで行うことがわかったので、全員を交えて話し合っしていきたいと思う。東海大学と関係性が強くなったので、学生の受け入れに限らず条件を整えれば町を元気にするために運動部などの受け入れも進めることができるのではないかとと思う。	
38	NPO法人アレルギーを考える母の会	神奈川県横浜市	大矢 幸弘 井上 徳浩 尾張 裕子 田野 ちなり	国立成育医療研究センターアレルギーセンター長 国立病院機構大阪南医療センター 小児科医長 保護者代表 患者本人	母の会発足20周年記念「アナフィラキシー親子のための懇談会」	令和2年2月8日(土)
	<b>講演内容</b> 午前中は「食物アレルギーの治療と心理的アレルギーの克服」「子どもに行動変容をもちやす接し方」の二つをテーマに大矢先生が講演、患者家族が大矢先生のもとで自己効力感を持つ治療に取り組んできた経過を報告した。午後は、アレルギーの子どもの海外へ修学旅行に出かける際の支援について国土交通省観光庁に要望・意見交換した保護者の報告や、災害時のアレルギー患者支援に関する「母の会」の報告の後、井上先生が「治る食物アレルギー治療」をテーマに講演、井上せんせいのもとで目標をもって地道に治療に取り組んで健康を回復した経過を患者と家族が報告した。				<b>事業成果</b> 治療の進め方についての専門医による丁寧でわかりやすい公園と、専門医の指導の下で実際に健康を回復した思春期の当事者や家族の体験を聞くことで、様々な課題を抱えて困っていた参加者の全員が、希望を持って治療に取り組めるようになる機会となった。また、受診時には聞けないような疑問や不安などを解消するための質疑の時間も講師交え2時間以上懇談、当事者の報告、交流も行われるなど、普段孤立しがちな参加者がお互いを励まし合い、希望をもって治療に取り組めるようになる機会にもなった。	
39	NPO法人サポートC	長野県茅野市	土田 英文	一般社団法人日本アンガーマネジメント協会トレーナー	怒りや感情と上手につき合うための心理トレーニング	令和元年11月3日(日)
	<b>講演内容</b> アンガーマネジメントについて、個人ワークと少人数のグループでの共有をはさみながら講師の解説を聞く入門講座。そもそも「怒り」とは何なのかを理解し、怒る必要のあることは上手に怒り、怒る必要のないことには怒らないようになる「アンガーマネジメント」のポイントについて学んだ。まずは「最近怒った」具体例をあげ個々の「怒り」のタイプを数値化して自己診断し、自分はどんな感情を持ちやすいのか自己認識する。ついて、衝動のコントロール、思考のコントロール、行動のコントロールをキーワードに、「怒り」の感情といかに付き合うかの考え方や方法を具体的に学んだ。				<b>事業成果</b> 参加者アンケートでは提出者全員が、大変良かった・良かったと回答した。講師の話にも「アンガーマネジメントを理解すればよいのではなく、今日の内容をもち帰り、日々使っていくことが大切」とあり、多くの参加者が今後の生活に活かしたいと感じたようだ。講座実施後、意見が食い違い以前なら「怒り」につながったかもしれない場面で、「べき」が違っから(講座の中で怒らせるのは、こうあるべき」という自分の理想目の現実の2ギャップ」という話があった)と相手を理解しようとする声がかかる例もあった。今後のコミュニケーションに活かされていくものと思われる。	
40	地縁法人 錦生自治協議会	三重県名張市	大川 吉崇 磯部 由香	学校法人大川学園理事長 三重大学教育学部 教授	文化伝承 家庭料理大集合	令和2年2月16日(日)
	<b>講演内容</b> (磯部講師) 「和食と食育」をテーマに、昭和50年代の食事が質的に良かったことがわかってきたと、米を使った栄養バランスの良い食事の大切さについて講演いただきました。(大川講師)「日本の食文化の源流は伊勢神宮にある」をテーマにスライドを使って古来から現在に継承されている食である米、野菜、アワビ、昆布、魚、塩、酒が現在も届けられお供えされていると講演いただきました。				<b>事業成果</b> 31人から、43品の家庭料理を出品いただくことができました。磯部講師、大川講師の講演を受けた後、家庭料理が運び込まれると参加者は周囲に座り、一人一人からレシピや調理方法を紹介いただきました。紹介後、100人を超える参加者が歓談しながらバイキング形式で料理を味わいました。最後に大川講師から、食を通しての健康づくりが人間形成につながります。と講評をいただきました。家庭料理大集合で、郷土食のすばらしさを再認識するとともに地域交流を図ることができました。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
41	一般財団法人淡路島く うみ協会	兵庫県洲本市	清川 あさみ	アーティスト	第1回淡路島くうみ講座	令和元年8月10日(日)
	講演内容			事業成果		
当講座は、当協会の主事業として、淡路島への交流人口が増加する中、島内外の多くの人々に、淡路島の素晴らしい自然、歴史、文化等を広く知っていただくとともに、淡路島の地域活性化と淡路を担う人づくりを目的として年間6回開催している。 第1回となる今回は、写真に刺繍を施すという独特の手法で、アーティストとして活躍されている淡路島(南あわじ市)出身の清川あさみ氏をお迎えし、「わたしの創造の源～淡路島から未来をつくる～」と題して、対談形式で開催した。 また、学生時代を過ごした淡路島を振り返りながら、アートの道に進んだきっかけ、これまで制作された作品を映像で紹介いただきながら、「美女採集」をはじめとした作品への想いやモデルさんとのエピソードなどについてお話しいただいたほか、魅力ある淡路島づくりに向けての提案やこれから社会へ旅立つ若い世代へのメッセージをいただいた。				今回の講座のアンケート結果をみると、8割以上の方が「大変満足」または「満足」と回答している。また、60代以上の参加者が多い他のくうみ講座に比べ、清川さんと年齢が近い30～50代の参加者が約半数を占め、淡路島出身で国内外に活躍しているアーティスト清川あさみ氏の世界観や故郷淡路島への熱い想いに刺激を受けた若い世代の参加者も多かった。さらに、初参加のことも約半数あり、新たな参加者層の開拓につながったことに加え、参加者にふるさと淡路への郷土愛や芸術・文化への興味・関心を深めていただけたと評価している。以上の結果を踏まえ、今後も引き続き当講座の目的である淡路島の地域活性化と淡路を担う人づくりに向けた講座を開催していきたい。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
42	支え合いネットワークなん ぶ	青森県南部町	竹本 真紀	美術家	アートとまちづくり～ボランティアな視点と芸術感～ 講演+活動実践ワークショップ	令和元年11月24日～25日
	講演内容			事業成果		
11月24・25日の2日間において講演とワークショップの組み合わせによる研修プログラムにより実施した。1日目の講演では、地域の中に存在する様々な人のニーズによって生まれるボランティアや市民活動について、竹本氏が関わる横浜市の小金町や寿町の事例を交えてお話しされました。その地域の現状にふれ、アートを通して実際に関わっている地域の過去から現在までの変化がわかる内容でした。2日目のワークショップでは南部小学生の4,5,6年生と『青い森鉄道諏訪ノ平駅を魅力あふれる駅にしよう』とアートを製作し、駅舎や待合室、こ線橋の窓に貼り付けるなどし、アートによる魅力アップを図った。				講演とワークショップの組み合わせとして、聞いた内容を目で見て実践することができるという点では2日間の参加者(主に会員スタッフ)にとっては研修効果が高かったと考える。それぞれの効果としては、講演は青森県内にはないであろうケースに対するボランティア活動の事例がいくつもあり、地域実情による課題解決に向けて住民自身が活動する意義を学ぶことができた。ワークショップは地域課題としての鉄道の利活用推進やマイレール意識の向上を地域の子どもたちと活動することで地域の担い手育成にもつながるきっかけづくりとなっている。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
43	特定非営利活動法人奈 良国際協力サポーター	奈良県奈良市	アンドリュース 池田淳	クリエイティブ・ハイブリッド社ク リエイティブ・ディレクター 大阪芸術大学非常勤講師	記紀・万葉レクチャー「奈良・吉野の魅力」	令和2年2月9日(日)
	講演内容			事業成果		
奈良県民及び外国人にのらる歴史・文化の魅力を紹介し、地域活性化を図ることを目的として本講演会を実施した。エバレット氏はベリ－提督とともに来日した写真家の子孫で、来日以来、黒船時代の技法(湿版光画)で「古き良き日本の面影」を撮影し発表している。日本の歴史・文化の本質をよく理解し、湿版光画写真を示しながら日本文化の源流を紹介された。薬師寺の遠景を映しながら、山伏のほら貝を吹いて聴衆に感銘を与えた。奈良吉野の歴史・文化に造詣が深い池田氏の講演では、古代吉野(現在の宮滝)が「神仙境」とされ、持統天皇らは数多く行幸している(日本書紀)。古代の天皇にとって吉野がいかに重要で神聖な場所であったかを説明された。天皇に随行した歌人が数多くの歌を万葉集に残している。				エバレット氏の講演から、日本人自身が忘れてきている「古き良き日本の面影」を一般市民に思い起こさせた。また、池田氏の講演から、1300年以上前から吉野(現在の宮滝)が神宿る地(神仙境)で会ったことを示され、聴衆は大変感銘を受けた。このように、奈良の魅力が日本の歴史専門家や在留外国人から指摘されることは県民として誇りに思うだけでなく、海外にもこの魅力を発信していく原動力になると思われる。 「令和」への改元で万葉集や古代史がクローズアップされ、多くの人々が奈良の歴史・文化遺産に多大の関心を持っている。この催しはその期待に応え、地域の歴史・文化の理解をさらに深めるとともに地域活性化の役割を果たすものと期待される。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
44	特定非営利活動法人とす 市民活動ネットワーク	佐賀県鳥栖市	石原 達也	特定非営利活動法人岡山NPO センター代表理事	おたがいさまのまちづくり～みんなの得意を知って、つないで活か す～	令和元年11月16日(土)
	講演内容			事業成果		
・協働について 協働はなぜ必要か→単一組織の限界、すべてを同一に扱う限界、提供だけの限界 人口規模のサイズダウンに向けて(岡山県での事例紹介、課題があるから活動がある)→地域の総合力で解決へ ・協働事業事例を使ったワークショップ 行政、NPOそれぞれへのアドバイスを考える→協働事業の3つのポイント ①ビジョンと単年度成果が合意されている ②ステークホルダーが見えている ③良い事業より良い仕組みが話し合われている →協働をすすめるために必要なこと ①パートナーの育成・発掘 ②ルールの整備と運用 ③推進体制と成果の最大化 ・災害支援から見る協働 つながり合い、信じあえるまちへ →普段からお付き合い力を高める。(脱・根性論、脱・定番論、脱・無知論)				・地域づくり関係者と行政職員の数のバランスもよく、各テーブル活発な意見交換ができ、協働についての基礎知識を学ぶことができた。 ・単体での活動に限界を感じている組織もあり、今後連携や協働で乗り越えていかなければならないとの意識づけができた。また、参加者はいろいろな垣根を越えて交流を進めていくことが新しい一歩になると感じた。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
45	(特非)いちかわライブネッ トワーククラブ	千葉県市川市	慶田 豊 太田 剛	くらりか 代表 CoderDojo市川真間 代表	TMOシンポジウム「科学技術に親しむ地域づくり」	令和元年11月9日(土)
	講演内容			事業成果		
「科学技術・ICT技術に親しむ地域づくり」テーマとして東工大OBにより結成された理工科工作クラブ「くらりか」及びcodadojo真間を主宰する太田講師による2講座を実施した。午前中はレモン電池によりデジタル電卓が動くことを説明し、午後は、パソコンを用いてプログラミング教室を実施した。				当初の予定を上回る親子の参加があった。また今回の講座のために6名のTMOの関係者が一からスクラッチを習得し、ティーチング・アシスタントとして活躍した。また市川市在住の東工大OB2名からNPO参加の申し出があった。これをもとに「地域ICTクラブ」の立ち上げ準備を進めることとなった。		



NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日	
46	泉佐野歴史発掘委員会	大阪府泉佐野市	浅野 秀剛 馬野 正基 原 大 辻 雅之 上田 慎也	美術館館長 能楽師 能楽師 能楽師 能楽師	教科書の中だけではもったいない！ ～蟻通神社に伝わる伝承を深く掘り下げる～	令和元年9月16日(月)	
	講演内容			事業成果			
蟻通神社を会場にしての3回目となった「蟻通歴史講座」を開催した。今回は第1部は講演、第2部はパネルディスカッションの構成で実施した。			浮世絵に造詣の深い浅野先生の講演は、今まで、知らなかった浮世絵の作品や浮世絵師のについて改めて認識を深めることが出来た。また、歴史、古典文学、謡曲(能)と深く結びついていることを学べたことは、今後、浮世絵の展覧会があるときに、今までとは違う目で作品を鑑賞することが出来る機会を与えて頂いた。充実した内容の濃い講演となって、参加者は非常に爽やかな講演を聞いて、参加して良かったと感想を述べておられた。第一部、第二部の講演を通して感じたことは、日本の芸術、古典、芸能と古来より現在まで続いている貴重な日本の伝統を今後も継承し、次世代に引き継いでいかなければならないことである。学校で学習する古典や文学が大人になってからでも、地域の身近なところで発信され、体験できるといことを今回の講座を通じて知っていただけたら幸いである。				
47	公益財団法人 安芸高田市地域振興事業団	広島県安芸高田市	①西原 淳 ②矢野 泉 ③三吉 好治 ④木下 卓也	(一社)日羅町観光協会 事業部長 広島修道大学 教授 県立広島大学 教授 鳥取県日野郡鳥獣被害対策協議会実施隊チーフ	地域人材育成研修会	①令和元年7月17日(水) ②令和元年7月30日(火) ③令和元年8月9日(金) ④令和元年10月19日(土)	
	講演内容			事業成果			
第1回 農業に競争力を求め、大規模化、効率化等、資本の理論で評価するのではなく、農村での暮らしの価値は、「お互い様」とした互いの関係性を重視することにより、「互いに住みよさ」を創り上げることにあり、互いを支え、共に地域で暮らすとした行動が持続的な地域の創出につながることで、関係性の再構築のための話し合いの場の確保が重要であるとされた。			この研修会は投資の人口減少に伴う担い手不足により、地域の自治機能の確保が困難となることが想定されること、並びに地域の経済活動や農産物生産の阻害要因、居住環境の悪化要因になりつつある被害への対応について、地域の現状を踏まえ、行動に興す人材を育成することを目標とした。				
第2回 道の駅の運営と地域の賑わいの創出等について、年間90余りのイベントやその取組事例の紹介があった。地域の生産者をはじめ、事業者や関係団体とのつながりを重視し、道の駅の立ち位置や役割を明確にすることが町の元気を創ることになるとされた。			第1回、第2回、第3回は市役所やJAの中堅職員、また地域の運営に関心のある住民を対象とした「地域振興人材育成研修会」、第4回は市内全域32の住民自治組織役員や市議会議員、各種団体の構成員を中心とした「まちづくり講演会」とし、地域活動を仕掛ける立場の市やJAの職員、これからの地域運営を担う市民を主たる対象者として研修事業を実施した。				
第3回 インシヤシカによる農産物への被害により、農家の生産意欲の低下も懸念されている。被害の軽減策として講師が開発した忌避装置の実証実験の結果や効果、防護柵との併用など、使用にあたって留意点等や利用実績の報告がされた。また、捕獲した動物の肉や脂肪等の利活用について、取組の紹介があった。			いずれも、研修を通じて示された先行事例や取組に関心が寄せられた。農村居住の価値の確立、道の駅の運営と地域振興への関与の在り方、拡大する被害への住民主体による取組は、今後の安芸高田市のまちづくりにも活用できるものである。				
第4回 協議会の設立経緯や背景、被害対策実施隊の活動が紹介された。組織活動は被害状況の把握や獣の行動調査、防止のための普及啓発等と幅広い。住民を巻き込んだ地域全体での被害防止のための「寄せない・入れない・捕まえる」を基本対策とした住民主体の行動は、鳥獣被害の軽減に効果的であると報告された。							
48	フープダンスキッズ飯塚	福岡県飯塚市	一瀬 弘美 高橋 葵	ボイスコーチ フラフープアイドル	みんなで楽しくフープ・ボイトレ	令和元年8月8日(木)	
	講演内容			事業成果			
当事業はフラフープを使って体を動かす楽しさを味わいながら五感を刺激することで、体験を鍛え感情を豊かに表現することができるようになることを目的としています。ボイスバランストレーニングによって体のバランスを整えることで心を整え、呼吸の仕方や音の出し方を学び、集中力をアップし自立神経を整え、基礎体力を鍛えます。今回の事業により、学んだことや磨いた技を地域のイベント等で発表し、地域の一人として地域づくり活動に積極的に参加することで、子どもや保護者が異世代との交流を進めること、また、地域の人に喜んでほしいと考えています。また、練習したことをイベント等で演技をすることは、自身をつけ、さらなる成長につながるかと考えます。			オリジナルのフラフープを作りフラフープの回し方をご指導していただいたことで、できない人も練習の成果で回せるようになりました。作ったフラフープで自宅で継続して回すことをご指導いただきました。世界に一つのフラフープを大切に持ち帰られました。嚙下機能のご指導にて、体のストレッチ、呼吸法や音の出し方を学びました。最初の声からレッスン後には随分発声が代わり皆さんとてもとても楽しそうでした。学んだことを発表してもらい、最初は恥ずかしそうでしたが最後は楽しんで達成感を得ることができました。				
49	NPO法人あきたパートナーシップ	秋田県潟上市	岡本 亮太	(一社)ClearWaterProjectコーディネーター	クラウドファンディング・カワサボ活用のための、河川活動団体交流会	令和元年11月3日(日)	
	講演内容			事業成果			
(一社)ClearWaterProjectコーディネーター岡本氏からクラウドファンディング「カワサボ」についての使い方や実際の事例、他クラウドファンディングとの違いなどを説明していただいた。一般的なクラウドファンディングの達成率は30%であるが、カワサボは80%以上の達成率を実現しており、そのための工夫は有益な情報であった。後半はワークショップに沿ってカワサボの利用を想定した事業の組み立てを二人一組になって対話形式で行った。それを参加者同士での発表、講師からの事業へのアドバイスをいただいた。			まず、出席人数10人は、予定者数30人を大幅に下回ってしまった。ここは、実施時期がイベントの多い秋口の3連休中になった点、告知チラシから内容がわかりにくかった点などが反省点である。しかし、その分集まった参加者は皆さん実績のある活動者や熱心な大学生であり、岡本氏の講話に対する質疑応答およびその後のワークショップは非常に充実した内容になった。参加者から出されたカワサボへの応募案はどれも完成度が高く、わずかな手直し、もしくはそのままでも実際にクラウドファンディングを行った際には成功しそうなものも少なくなかった。これを機会に、参加者団体や学生による協働が進みそうな手応えがあった。				

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
50	傾聴ボランティアサークル 梨〜風	宮城県利府町	森山 英子	仙台傾聴の会 代表	傾聴ボランティア養成講座 初級コース	①令和元年9月18日(水) ②令和元年9月25日(水) ③令和元年10月2日(水)
	講演内容				事業成果	
	9/18 傾聴とは、信頼関係の体験・ロールプレイング 9/25 ロールプレイングとは、姿勢、問いかけ等 10/2 認知症とは 互いの信頼関係を築くことで、本当の気持ちを聞くことができる。話し手の気持ちに沿って待つことも大事。聴く技術以外にも、人柄も磨くことが大切、生涯の勉強、聴かせていただくことは自身の勉強にもなる。	介護の仕事、ボランティア活動の方等利府以外からも、多賀城、塩釜、七ヶ浜等広範囲からの受講者は、それぞれの立場で傾聴の必要性を感じていた様子で、実際の事例による実技では受講後大変役に立つと喜ばれた。各方面に活躍する方々から傾聴の良さを発信できると考える。また、多賀城の傾聴ボランティアdな隊の養成講座補講にも一役買った。今後も相互の協力体制を強化していきたい。梨〜風にも3人加入した。				
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
51	ののいちばぐドットネット実行委員会	石川県野々市市	三塩 菜摘 竹人 悠渡	NPO法人コラボキャンパス三河・ディレクター コラボキャンパス三河 学生代表	「子どものまちボンボンBomBomTown」	①令和元年8月27日(火) ②令和元年8月28日(水)
	講演内容				事業成果	
	(1)当事業実施前の事前準備会議でのレクチャー 当日に想定されるリスクについての管理、各職業体験のマニュアル整備についての指導。全体運営に関するアドバイス。 (2)当事業実施中における現場指導・フォロー「まち」らしさを生み出すための具体的なサポート。子どもの主体性を尊重する関わり方の指導。子どもの集団、想定外の行動をする子への対応のサポート。疑似経済、疑似通貨の流通に対するのアドバイス。 (3)当事業実施後のフォローアップ会議でのフィードバック 市民体験、まち全体としての客観的視点のアドバイス。野々市の地域性や規模でのフィードバック。	本企画においては、その環境や機会を大人が一時的に与えているのではなく、子ども・若者発信でその場が作られていくことを目指し、子ども・若者が場づくりを、子ども・若者が集い、自治していきけるような機会を作ることを目指しており、その結果、わがまちや我が国のことを自分ごととして考え、行動する子ども・若者が増えることを期待していました。当事業の開催に伴い、先進的モデル事業の実績を有する講師をアドバイザーとして招聘できたことで、専門的知見からの指導により質の高い事業を実施できました。具体的な指導として、まちの中でうまくいっていないことがあれば、大人スタッフが対応するのではなく、子どもの職業として役割を当てはめること、子ども同士の解決を促すこと、細かい説明をせず子どもたちに考えさせること、など大人の人的環境のアドバイスは効果的でした。				
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
52	みやざき地域おこし協力隊活性化委員会	宮崎県宮崎市	藤井 裕也 青野 雄介 高萩 誠	(一社)岡山県地域おこし協力隊ネットワーク 代表理事 株式会社BRIDGE the gap代表取締役 プリント工房tee bank代表	第4回地域おこし協力隊みやざきサミット	令和元年9月10日(火)
	講演内容				事業成果	
	【基調講演】地域おこし協力隊の失敗事例からみるポイントと戦略 ・藤井 裕也氏 自身が協力隊として着任するにあたり、着任前から現地の草刈りをするなどして、地域になじむために行った藤井氏ならではの事例など、着任1年目の隊員にも参考になるような話や、地域おこし協力隊にありがちな失敗事例などを挙げ、いかにしてそれを乗り越え、隊員たちが望む任務の遂行及び、任期終了後の在り方へ持っていくか、2年目3年目の協力隊員が直面する問題について参考となるような内容だった。 【OB・OGとの意見交換会】 ・青野 雄介氏 現役の協力隊からの意見交換会で、起業に向けての心構え、どのようにして小林市から委託を受けることができたのか、起業するときが一番苦労したこと等宗土の意見交換を行った。 ・高萩 誠氏 現役の協力隊からの意見交換会で、事業継承についての経緯、事業継承で一番大変だったこと、事業継承を行う上でのポイント等などの意見交換を行った。	地域おこし協力隊の先進地である岡山県の事例を、そのトランプランナーである藤井氏より伺う機会を得たことで、今後の活動の参考になったことは勿論、地域おこし協力隊のスキームとして今後起ころうであろう問題点など、大きな視点で隊員たちの置かれる立場を改めて知ることができた。一方で、地域おこし協力隊員OB・OGとの意見交換会やワールドカフェ等のワークショップで交流を続けることで、隊員それぞれが抱える個々の問題についての情報交換や共有・相談する機会を持ったことは、今後の活動を行う上で、また移住定住に向けて大きな意味を持つものとなった。				
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
53	特定非営利活動法人ヤングプロフェッションコネクションジャパン	山梨県甲府市	三輪 宗久	ユニバーサルプランナー	スタートアップカフェ構築事業	①令和元年7月25日(木) ②令和元年8月29日(木) ③令和元年9月26日(木) ④令和元年10月17日(木)
	講演内容				事業成果	
	山梨県内のスタートアップを育成するためのコミュニティ構築を行う事業を行う。専門家に依頼を行い、現在の事業所に新たに、起業家の卵を育成するコミュニティの構築を行うことを目的に議論を始めた。すでにあるスタートアップカフェとの連携のアドバイスをいただいた。立ち上げには綿密な計画が必要であるとのことであった。	・スペースマーケットというサイトを利用して貸室を始めてみた。週に1回ほどの利用があり、手応えを感じている。今後がスタートアップカフェのシステムをスペースマーケットとも複合させて実施していきたい。 ・スクールを開始するのになかなか時間が取れなかったり、難しい部分があるが、今度教室を運営していきたいと考えている。 ・地方創生の補助金の取得などの手段もあり得る。補助金の取得を試みる。また、三輪氏より具体的な補助金の提案をいただいた。 ・また、クラウドファンディングを実施しては如何かと提案いただいた。今後マクアケなどを活用して、資金調達を行う予定とする。				
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
54	わかものまち野々市市実行委員会	石川県小松市	瀬野 航太 丸山 征哉	第5期若者議会メンバー市民 新城市役所企画部まちづくり推進課	わかもの会議設置に伴う研修会 講師招聘	令和元年8月24日(土)
	講演内容				事業成果	
	大きく3部構成にて講演を行っていただいた。また、その後の個別関心ごとに合わせて、質疑応答も行われた。 1 若者政策が生まれた経緯 当時の新城市長のマニフェストに始まり、今年で5期を迎える新城若者議会の始まりを理解する機会となった。 2 若者政策ワーキング 新城市がどうすれば良くなるかをメインテーマに「大臣制」等の工夫した制度導入も参考となった。市長が変わっても継続されるよう、若者条例・若者議会条例も設定された。それがきっかけとなり、いまの若者議会が生まれた。 3 若者議会 予算提案権は1000万円と日本最大規模の予算を誇る新城若者議会。講師が第4期議長であった際、NO BUS NO LIFE事業というものを自ら企画し、その当時のくんなや成果も共有された。現在は、新城市議会委員に就任した者、新城市役所に入所した者も現れ始めている事例の共有もあった。	これから野々市市にてわかもの会議の設置を目指していくにあたり、先進事例を作っている講師と、これからつくる主体との意見交換が有意義なものとなったのと同時に課題も明らかとなってきた。参加者からの質問として、「取り扱っているテーマが政策を作るというだけあって、健康や医療など、難しい印象を持ったが、参加者は、いつどんな経緯でこの取組を知り、どんな気持ちで関わっている?」「第3期など、高校生がたくさん集まっていたが、どんな要因で集まってきたか?」など実際に行う場合の集客や体制づくりに多く寄せられ、講師のアドバイスからヒントを得ていくシーンが見られた。				

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
55	NPO親子ふれあい広場	山梨県笛吹市	岩村 暢子	大正大学客員教授	地域づくり、人づくり事業 ～変わる家族の食卓 今必要な食卓を考える～	令和元年10月26日(土)
	講演内容				事業成果	
<p>パワーポイントを使い、家族の食事の変化を実例を挙げて説明。家庭の食卓を調査して20年目になる。413世帯、8673食卓の調査を行った。食卓写真を収集して700時間以上のインタビューを行った内容の分析。驚くほど日本人の食生活が変化していることが分かった。</p>					<p>・有意義な講演だった。私たちが便利で楽な生活に慣れてきていると感じる。 ・食に関する家庭の変化、聞くこと驚くばかりだった。参加者はそれぞれの立場、年齢で受け取り方が違う。講師が長年にわたり実施してきた食に関する実態調査の内容は、今後の家族食卓に大いに参考となった。</p>	
56	岡山建築設計クラブ	岡山県岡山市	千葉 学	東京大学副学長	京橋から『繋ぐ』“とき、ばしょ、ひと” ～朝市をにぎわせる～	令和元年10月26日(土)
	講演内容				事業成果	
<p>東京大学教授で千葉学建築計画事務所主宰の千葉学先生が自作・他作の紹介を写真等を交えながら、参加生徒がわかりやすい講演をいただきました。その中でも先生の作品を作っていくプロセスの中で、空間の本質とは何なのか、敷地の可能性や“せ”を読み取るなどについての方考え方や、模型をたくさん作って検討していくことの重要性など、参加した生徒たちも興味深く、今回のテーマにも沿った講演をしていただきました。</p>					<p>「京橋から『繋ぐ』とき、ばしょ、ひと」～朝市をにぎわせる～をテーマとした6校9チームの模型とプレゼンテーションを5分発表、5分質疑応答とした公開コンペとしてプレゼンでは発表しきれなかった内容を各テーブルで学生が話しやすいように水を向けていただきながらの追加説明を各チーム6分ずつ持たせていただきました。普段の課題の中での考え方はまた一つ違う形での建築設計への一面を感じることのできた時間であったと思います。千葉先生からは、学生の意図をよく聞いていただいたうえで的確なアドバイスをいただき学生たちも真剣に関心入っていました。最優秀賞は岡山県立大学、特別協賛いただいた京橋朝市賞は山陽学園大学でした。</p>	
57	大分県生活学校運動推進協議会	大分県大分市	松永 忠 溝口 薫平 神足 博美	児童養護施設 光の園 統括施設長 人材育成ゆふいん財団 理事長 立命館アジア太平洋大学外部講師	未来に向かって、共助と交流、活力ある地域づくり ～一人ひとりの絆を大切に～	令和元年11月7日(木)～8日(金)
	講演内容				事業成果	
<p>分科会テーマ「活力と温もりのある地域づくりをテーマに討議、「少子高齢化社会に対応できる福祉を中心とした共助と交流による絆づくり」「子どもを取り巻く地域での子育て支援、居場所づくり」「地域の特性を活かした防災、被災者支援による地域づくり」のねらいにそった活動発表についての助言を頂く。地域の防災を考える時の視点に外国人の方のことを視野に入れること。私たちの声を周囲にどのように伝えるか。また、子どもの居場所づくりについては地域の絆をどうつづけていくか、行政との連携、地域での学び、情報交換を密にしておくこと。子ども食堂の意義については食品ロス削減を入れることが肝要との助言も頂く。</p>					<p>幅広いテーマの設定とねらい、活動発表をもとに討議がなされた。高齢者が地域で多様な活動を続け、絆づくりに努めていることに共感する。子どもを取り巻く課題も地域性による問題提起がなされ、大いに参考になった。今後は、若年層をいかに地域活動に参加してもらうかが共通課題となる。最後に助言者が全国各地域での地域活動への助言や具体例を紹介、参考と成る。</p>	
58	古賀すたいる	福岡県古賀市	加藤 種男 中村 隆象 大澤 寅雄 菊森 淳文	NPO法人BaRaKa 理事 前古賀市長 ㈱ニッセイ基礎研究所芸術文化プロダクト室主任研究員 公益財団法人ながさき地域政策研究所理事長	地域づくりネットワーク福岡県協議会福岡ブロック会議 ～「文化の交流の歴史」から見たまちづくり～	令和元年10月13日(日)～14日(月)
	講演内容				事業成果	
<p>①中村氏 前古賀市長として、「古賀市の目指した文化のまちづくり」と題して講演。市長時代、まちにアートがあることで、まちの活性化や犯罪の抑止、学力の向上に繋がっている考え、古賀市アートタウン構想を推進されたこと、現在は在野の地域づくりボランティアとして古賀市のアートウォール推進に参画中。その熱意と展望について思いが語られた。 ②大澤氏 「糸島国際芸術祭」糸島芸農」から見るまちづくりについて」と題して講演。※台風の影響によりモニター出演 アーティストインレジデンスをベースに、2年に1回開催しており、イベントを継続させるため補助金等は活用せず、すべての支出をイベント収入で賄っていること、捨てられるおもちゃを素材にして作品を作る等、身の回りのものからアートを見て感じて楽しいと思ってもらえるような企画を心掛けている旨の話題提供がなされた。 ③加藤氏 「企業が創る地域文化～芸術文化と地域創造経済～」として講演。主要論旨は下記のとおり。※台風の影響によりモニター出演 ・今や企業は経営と資本を分離し社会に役立つ公益資本主義の実験が期待される。 ・企業の地域文化への創造は投資であり経費ではない。 ・災害列島といわれる日本は祭りが多い。災害で収穫を見込めるよう神様に鎮魂することの意味で祭りが始まった。見物人は本来必要ない。 ・神様に見てもらうために自分たちで面白くする手で創造的になった。これからはこうした祭り型のプロジェクトづくりが大事。 ・高齢者は自分たちの表現活動に限らず次の世代を応援できないか。生きているうちにお金を使ってもらう若い人へ年寄りファンドに着目。 ・今の高齢者は高度経済成長の前も知っている。昔の生き方に創造のヒントがある。 ④菊森氏 「みなの中心とした街づくり」について講演。「みなの中心とした地域住民の交流や観光振興を促進するため、住民参加による地域振興の取組が継続的に行われる「みなのオアシス」(国土交通省)の取組を踏まえ、まちづくりを成功させるには、キーパーソンの人材育成や官民共同によるまちづくり計画の策定と実践が必要であることを述べていただいた。</p>					<p>地域づくりネットワーク福岡県協議会の福岡ブロック会議に付随する会員団体主催行事として位置づけていたため、福岡都市圏における地域づくりの実践者や、それらの団体と連携する経験を持った企業や行政からの参加者が集まり、小規模ながら濃密な対話の機会を持つことができた。また、加藤氏の主張する「企業が創る地域文化～芸術文化と地域創造経済」に共感する講師・報告者が、それぞれの専門分野・活動領域から実績報告を語り合い、来場者とともに対話を重ね、また、13日は古賀市の14日は福津市津屋崎地区の現実の文化行事を視察した体験から、新たな多様な主体による協働と地域間の連携の芽を生み出しうる端緒となりえたと考えている。なお、10月13日夜は、貝の終了後、ごく少数ながら有志で古賀市の主催する「ワールドカップラグビーのパブリックビューイング」の視察を取り入れた。スポーツ観戦という新たな【文化】の楽しみ方と、企業や行政や市民等の多様な主体の支え方について、大きな気づきと学びがもたらされたものと考えている。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
59	一般社団法人 地域公益推進機構	埼玉県和光市	田中 佳	名古屋まごころ診療所副院長 (医学博士)	地域づくり・人づくり講演会2019 『腸の健康があなたを救う！～自然治癒力を回復させる食卓づくり～』	令和元年12月7日(土)
	講演内容				事業成果	
自然治癒力は医学では未解明であるが、整腸を心がけることで自然治癒力を回復できる。人体には約1000種の腸内細菌が1000兆個住んでいるといわれ、菌たちに住む場所と餌をあげることで、それを遥かに上回る様々な恩恵を受けている。腸内細菌の善玉菌が活発になるにはビタミン・ミネラル・繊維質や発酵食を摂ることが重要で、食の安心・安全は食材の質を選ぶことにある。今こそ正しい知識を学び、正しいものを選択することが必要である。					①予防医学の神髄が伝わる楽しい 講義内容で、日々の食卓づくりの意義を参加者全員が再確認できた。「つながる健康サークル」活動の紹介もあり、受講者のネットワークづくりや今後の活動につながる講演会になった。 ②清水農園より「BLOF理論に基づく有機栽培はミネラル優先の野菜です！」と題した報告があった。清水農園では、過去にこの理論の前身の技術を用いて、ホウレンソウの収穫量を50%程上げた。 ③かつては数百軒あった和光市内の農家は、都市農業が廃れるにつれて今や数軒しか存続しておらず、9代目となる清水農園主は早くから有機農法研究会を発足して独自農法に取り組みながら、和光市の「みどり」を守ってきた。防災まちづくりには森や林、田畑などを確保することが重要だからだ。その努力が今日の和光市の将来像(総合振興計画)に描かれた「田園都市」イメージにつながり、市民にふるさと和光への愛着心をもたらす要因となっている。その功績は大であり評価に値する。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
60	NPO法人元氣お届け隊	長野県千曲市	小柳 秀吉	株式会社リップシード代表取締役	「交流をテーマとした民泊事業による地域再生inOOOKA(大岡)」講演会	令和2年2月12日(水)
	講演内容				事業成果	
①観光マーケットと地方観光の可能性 訪日外国人の観光消費額は日本人の日帰り旅行に迫る勢いで、中国人が1/3を占める。訪日外国人の動向は個人旅行、コト消費、リピーター、地方、IT化。 ②シェアリングエコノミーと民泊ニーズについて 民泊とはシェアリングエコノミー(共助経済)。民泊(ホームシェア)サービスは住宅の全部または一部を活用して、宿泊サービスを提供するもの。農泊、民泊の規制が緩和されており算入しやすくなっている。生きがいづくり、外国人との文化交流、地域の観光活性化、遊休資産の活用につながる。 ③他地域の事例紹介と最新の観光トレンド 徳島市阿波踊りのイベント民泊について。飛騨市シェアリングエコノミー推進事業。徳島県美馬市観光体験コンテンツ造成事業。					大岡地区の魅力が抜群の景観でありそれは貴重な財産であることを再認識。ヨーロッパで行われているナショナル・ツーリズム・ルートの手法を学んだ。地元の住民や風習など、交流や生活があるがままに楽しんでもらうことが、心と心のふれあいを提供することで口コミ効果が期待でき、新規客・リピーターにつながる事が理解できた。小柳氏のレクチャーに寄り民泊事業への意欲が増し、資格取得に乗り出す住民が現れた。他地区の住民の参加も得られ交流を深めることができた。大岡公民館、大岡地区住民自治協議会、大岡グリーンツーリズムクラブとの連携・協力が進んだ。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
61	高松第三行政区ふるさと地域協議会	岩手県花巻市	姉齒 暁	駒澤大学経済学部教授	住民主体の地域活性化で魅力発信！	令和2年1月26日(日)
	講演内容				事業成果	
○講演のテーマ「住民主体の地域づくりについて」 ○講演内容 1.人口減少と都市部一極集中の現状を見る 2.「一攫千金」幻想からの脱却＝地域活性化はギャンブルではない 3.外発的発展幻想からの脱却の必要性 真の地域発展の道＝「住みやすい地域」「最後の一人まで見捨てない地域」へ ○まとめ 住民の継続的な試行錯誤こそが地域づくりの基本 ・地域づくりは一攫千金より地道な継続的取組から →身近な課題を身の丈で解決していくことを考える ・過去の失敗を繰り返さない →公害、リゾート開発の失敗に学び、幻想を抱かないことが大切(外発的発展に頼らない) ・そのうえで、「失敗を恐れない」住民同士の意見交換を(内発的発展を)。誰でもどこからでも(途中からでも)参加できる「券割気づくり」をベテランが準備する。これが結構大切。					○参加者が花巻市高松地区住民だけでなく、地区外及び地域づくりに関係する団体や個人(駒沢大学生、岩手県議、花巻市議、岩手県、JA)いわて花巻、一関修紅短大)が多く参加し、地域づくりに対しての関心の高さがわかった。今後、さんかしてくれた地区外の人たち(団体含む)との連携を深めながら、一緒になって地域課題を解決していきたい。 ○講師の姉齒教授はすでに研究で2度高松地区を訪れており、その体験から離されるべしという説得力があり、これからの地域づくりにおける大切な要素を共有することができた。 ○講演と同時に開催した地区内2団体で取り組んでいる「中山間地域(超急傾斜農地全管理加算)」のパネル展示は、非農家を含めた参加者から「取組状況がよくわかった」と好評であった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
62	淡路ふるさと塾	兵庫県淡路市	矢下 幸司	カスタム出版部プランナー	住民自治と地域振興	令和2年1月24日(金)
	講演内容				事業成果	
まず、まちづくりの歴史的考察から言うと、産官学連携だけでなくこれからは、「産官学民」という取り組みが大切です。誰もができる環境をつくることです。今は全国各地でDMOの取組が進められています。例えば、京都府は「お茶の京都」「杜の京都」「竹の京都」など地域の特性を活かした情報発信をされています。 兵庫県内においても、西宮市や尼崎市でも積極的にDMOに取り組んでおられます。そういう地域の連携も今後は進める必要があります。昨年と同じ事業計画では、進歩、活性化がするはずはありません。地域愛を持って、地域の魅力を内外に発信することこそが究極の地域振興だと思います。最近では地域振興の新しい形として、SNSをはじめとしたITテクノロジーを活用した情報発信がトレンドになっています。そのために多くの住民の方々の自治による活動が必要なのです。					宝塚市や西宮市など、我々が身近に感じているまちの取組を知ることはある意味、衝撃的でした。昨年、兵庫県内で開催された「地域づくり団体全国研修交流会」では話題にならなかった内容でした。講演終了後に、講師を交えて融資の意見交換を行いました。住民同士のつながりを深めていく必要を感じました。そこで県の地域振興課に事務局のある「ひょうご交流びとクラブ」への加入を広く呼び掛けることに決定しました。さらに、西宮市とDMOによる連携を矢下氏の応援を得て、模索することとなりました。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
63	認定NPO法人ときわ会藍ちゃんの家	三重県伊勢市	藤岡 喜美子	NPO法人市民フォーラム21 事務局長	ツリー型ロジックモデルについて学ぶ	令和2年2月8日(土) 令和2年2月23日(日)
	講演内容				事業成果	
1日目はNPOやマネジメントなどの基礎的な知識についての説明から入り、組織として目指すべきビジョンをしっかりと定めることの大切さと、事前課題のワークシート(自団体、自部署の現状や課題を整理)を例に、どのようにそのビジョンを設定するかについて講演いただきました。 2日目は、講師から随時アドバイスをしていただきながら、事前課題(自団体、自部署のビジョンと長期目標を設定)をもとに、参加者全員で協力しながらロジックモデルを実際に作成していくグループワークを中心に実施していただきました。また、研修後もロジックモデルシートのブラッシュアップを行い、講師に添削していただくことになっています。					1日目は、NPOの本質やまねの大切さ等について、簡潔かつ丁寧に説明していただけたことで、学問的な研修に参加することの少ない参加者にとって学びの多い機会になったと考えています。 2日目は、1日目に学んだことをもとにしたグループワークを中心に実施、指導していただいたことで、ロジックモデルについてより実践的に学ぶことができました。また、他団体のロジックモデルシートも皆で作成することで、それぞれの現状や課題、ビジョンについても把握する機会となり、NPOの仕事に対する意識を高める良い契機になりました。	